

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 2022年4月8日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492300029		
法人名	社会福祉法人 広島友愛福社会		
事業所名	グループホーム ふきのとう		
所在地	広島県大竹市松ヶ原町854-1（電話）0827-57-7288		
自己評価作成日	2022/1/11	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=3492300029-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1番8号
訪問調査日	令和4年4月8日（金）

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

ふきのとうの理念は「私たちは 笑顔を大切にします」です。入居者様が自分らしい生活が送れるように毎日の体調管理を行ったり、一人一人のペースを大切に、笑顔が絶えないように話しかけています。また、職員自身が健康に気を付けて笑顔で接しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫、（評価機関記入）】

グループホームふきのとうは、緑の山々に囲まれ、事業所側には、小川が流れていて、自然豊かな所に位置している。職員は、利用者と共に生き、利用者が生き甲斐のある生活を送れるようケアに取り組んでいる。それぞれの職員が細やかな観察力で、利用者の言葉や表情、行動等から思いを汲み取り、カンファレンスで情報交換をして、利用者一人ひとりが豊かに暮らせるよう、同じ視線でケアに反映させている。昼・夜2食は、配食業者に依頼しており、御飯とみそ汁は、事業所で準備している。朝食はパン食を水・日曜日行い、他の曜日は、御飯食を提供している。利用者は下ごしらえや、食器洗い、食器拭き、台拭き等、出来る事を職員と一緒に楽しみながら行っている。利用者一人ひとりがしたい事や出来る事、得意な事に喜んで取り組めるように支援をしている。職員は常に利用者が「その人らしくできることは何か」を話し合っ、日々のケアに取り組んでいる。

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ふきのとうの理念「私たちは笑顔を大切にします」をホール、事務所に掲示して毎日笑顔で暮らせるように、サービスの提供を行っている。	法人理念「自立と共生」を基に、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念「私たちは笑顔を大切にします」を作り、事業所に掲示して、常に確認している。ミーティングで振り返りを行い、日々の実践に活かしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルスの影響で地域の行事は中止になっていたが、12月のはじめにこぶしの里オープニングがあり参加することができた。毎週水曜日に地域の農協に野菜を買いに行ったり、地域の方からお米の購入も続けている。	地区の自治会に加入していて、管理者は班長を受けており、地域の情報は、回覧板等で把握出来ている。コロナ禍で、自治会や地域の行事は中止となり、ボランティアの来訪や他施設との交流も控えており、利用者が地域の人と交流する機会は少なくなっている。12月に「こぶしの里オープン」では、バザーやウォークラリーに参加して交流している。又、保育園児と和紙で作成した、お手紙を互いに交換して交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターからのご紹介や老健からの紹介の方、民生委員など地域の方からの相談に対応している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍の影響で運営推進会議は開催出来ない。開催時には、ホーム内の様子や行事、事故予防、地域防災について意見を交換し、ホーム運営に活かしている。	年6回運営推進会議を開催していて、介護高齢者係・地域包括支援センター職員・自治会長・民生委員・認知症の人と家族の会会長・施設長・職員が参加して行われていたが、コロナ禍の為、書面での開催とし、議題は、利用者の状況や事故・ヒヤリハット、行事、地域防災についての意見交換をして報告書を作成し、市へ報告している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市の担当者とは、必要に応じて連携をとって助言、指導を仰いでいる。	市担当者とは、電話やFAXの他、直接出向いて助言を得ている等、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、電話やFAXで利用者の状況や地域の情報交換をする等、連携を図っている。ケアマネ理事會に参加し、ウェブで開催して、他事業所との交流を行い、協力関係を築くように取組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての取り組みをフロアに提示している。ミーティングを行い、身体拘束・虐待のないケアに取り組んでいる。	「身体拘束適正化のための指針」に基づいて、法人研修で学んでいる他、スタッフ会議や法人の研修会でも話し合っており、職員は正しく理解し、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は昼間施錠せず、外出したい利用者に気付いたら、職員と一緒に出かけ、気分転換を図っている。スピーチロックについては、職員間で注意して、勉強会やミーティングで話し合っており、気になる言動については管理者が指導している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日々の介護の中で声のかけ方にも気を付けるようにしている。入居者の方の僅かな内出血等も必ず管理者に報告し、確認している。職員はケアシートに記録し、情報共有している。			

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	現在は成年後見人制度を利用されている入居者様はおられないが、制度に関しては、周知している。		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約の際は、必ず管理者が家族に十分な説明を行い疑問や不安などその都度わかりやすく説明し、対応している。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	ご意見箱は、入り口に設置している。ご家族様の面会時に日頃の様子をお伝えして要望、意見を受け止め改善に向けている。	家族からは、面会時(ビデオ面会含む)や電話で会話した時や、利用者からは、日々の会話の中で、思っている事や意見、不満を汲み取る事が出来るよう意識している。事業所便り「ゆうあい」と、利用者の様子を書いた手紙を、請求書と一緒に送付している。それらの意見を検討して、家族の意見を運営に反映させている。	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	普段から職員の意見や、提案が上がりやすい雰囲気を作っている。職員の意見を聞き、提案等話し合っ取り組んでいる。	1～2ヶ月に1回のグループホームミーティングや申し送り、毎日の朝礼や日常業務の中で、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。又、そこで出た意見は、グループホーム会議で検討し、運営に反映させている。	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	広島友愛福祉会の人事評価制度がある。定期・不定期にホーム長との個人面談をしている。		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	資格取得のため勤務変更を行ったり、様々な研修への参加を可能な限り実施している。(ふきのとうの全職員で看取り研修など)		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	管理者が大竹市介護支援連絡協議会の理事と多職種連携協議会の役員を請負い、定期的に会に出席して情報交換をしている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前はご本人、ご家族に見学に来ていただいたり、ご自宅に訪問して本人とご家族の意見を聞き必要とされていることを職員が周知する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前にご家族が見学に来られた際、どんなことでもお話を伺い、ご家族様の思いを尊重し安心していただけるように、ホームでの生活についてしっかりと説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談に来られお話を伺った段階で必要に応じて当事業所以外のサービスの情報提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人が出来ることを一緒に行い、感謝の言葉をかけ入居者様の笑顔を引き出している。洗濯たみを主に手伝ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍で面会出来ない時もずっと本人様の写真を撮ったり、美容の日のカット後の写真を撮り、ご家族にお送りしている。また、衣類の交換や通院など家族に関わって頂けるよう依頼している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	新型コロナウイルス感染防止対策のため面会禁止であった。ラインに登録してもらい、ライン電話をしても良かったり家族様との繋がりが途切れないように支援している。	家族とのつながりを保つ為、ライン面会の支援をする等、それぞれに合わせた支援をしている。まんぼう開けでは、自宅に帰ったり、銀行に行ったり、友達が面会に来た事もある。利用者の歩んだ歴史や、家族の話題、昔話を語り合う等して、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様同士でお話ができるように職員が間に入って一緒に話をするように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所者の家族の方や事業所より相談があれば、支援を行っている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴や普段の言動などから本人の意向を把握するように努めており、ここでの生活がより良いものになるように支援を行っている。	入居時にフェイスシート・アセスメントシートを活用し、生活歴や趣味、嗜好、特技、性格、家族の希望等を聞いている。日々の関りの中で、利用者一人ひとりの言動や状態、表情を細やかに、介護記録に記入し、カンファレンスで検討して、全職員で思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、カンファレンスで本人本位に検討している。				
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族様の情報からこれまでの生活歴等既往歴を把握出来るように努めている。入居時は、自宅で使用していた物品を持参して頂き安心して生活出来るように努めている。					
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常生活の中で一人一人の言動、行動を観察し、現状を把握するように努めている。また申し送りノートやケアシートでそれらを共有している。					
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	必要に応じて本人、ご家族、看護師、職員のいけんを聞き、ケアカンファレンスを実施し、介護計画を作成している。6ヶ月ごとに見直しをしてモニタリングを実施。	月1回のカンファレンスで、職員の意見を聞き、ケアシートや担当者会議録を参考に、医師や看護師の助言、本人や家族の意向を反映した介護計画を立てている。6ヶ月毎に、評価シートに沿ってモニタリングを行い、見直しをしている。利用者の状態に変化があれば、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアカンファレンスの開催に、多くの職員に参加して頂き、話し合い、職員が同じ目標を持って、利用者の状況の変化や要望に応じたケアを行えるように、期待します。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ケア記録を毎日記録してその記録に基づいて介護計画の見直しに活かしている。					
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者様の状況をその時々に応じて、職員同士で話し合い、対応出来るように取り組んでいる。(小規模の機能訓練への参加や交流。散髪など外部サービスの導入など)					
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域行事に参加させて頂くとともに近所を散歩したりして地域の中で楽しみを感じて頂いている。また行事にボランティア参加していただいている。					
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医は原則、入居前の医院であるがご家族様、ご本人の希望により、訪問診療医院を紹介している。訪問診療医院には往診時情報提供と相談を定期的に行い、緊急時はすぐに連絡して指示を受けている。薬剤師とは2週間ごとの薬対応をしてもらっている。	本人や家族の希望するかかりつけ医や、協力医療機関をかかりつけ医としている。2週間～1ヶ月に1回、協力医療機関の往診があり、訪問歯科の必要な利用者には、適時往診があり、他科受診は、家族対応をお願いしているが、無理な場合は職員が対応している。薬剤師は2週間に1回来て、服薬管理を含め体調管理に努めている。				

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションゆうあいと連携して24時間看護師に連絡・相談ができる。また週4日看護職員が出勤しており通常の健康管理と通院介助等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはできるだけ早く病院に情報提供書を送り情報の共有を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化指針の説明を入居時に必ず行い、家族の意向を聞いて主治医や看護師等話し合い方針を決めて支援している。終末期ケアも取り組み、2021年に職員看取り研修を行い、1名看取ることができた。	「重度化及び看取りに関する指針」に沿って、契約時に事業所で出来る対応を家族に説明している。実際に重度化した場合は、「重度化した場合における(看取り)指針」に基づき、改めて家族に意向を聞き、「看取り介護についての同意書」により確認している。主治医や看護師・訪問看護師と話し合い、医療機関や他施設への移設を含めて、本人・家族の意向に沿った方向性に配慮しつつ、チームで支援に取り組んでいる。看取り経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応のマニュアルを作成している。また、報告・ヒヤリハットを記入をしてみんなで共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域と防災協定を結んでいる。ふきのとう災害対応マニュアルを作成している。緊急時の食料や水、非常用トイレや自家発電機を準備している。年2回昼夜を想定して火災避難訓練を行っている。	災害時避難訓練(火災を想定した消火、通報、避難訓練)を年2回、利用者も参加して実施し、災害等情報確保の方法や緊急時連絡方法、避難誘導訓練、物品(食料・水・非常用トイレ・自家発電機)の確認等を行っている。又、水災害を想定した避難訓練を、土砂災害警戒情報を活用して、実施している。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩として言葉遣いには気を付けているが、その場の雰囲気でもうけた言葉を使っている。訪室時などは、ノックをし、声をかけている。	プライバシー保護の取り組み「接遇」等を学び、利用者の人格の尊重やプライバシーの確保、守秘義務の徹底について、全職員が理解している。誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に仕組み、不適切な対応があった場合は、管理者がその都度注意したり、職員間で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	認知症の方でも自己決定ができるように、2者択一で選んでいただいたり、しっかり話しかけて、様子を見て意向を察するようにしている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人のペースや思いを尊重してその人に合った支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝の整容の手伝いや好きな服を着ていただいたり、二ヶ月に一回の訪問美容で本人の希望に沿ったスタイルにしている。行事の際は化粧や服など、いつも以上におしゃれしていただいている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	下ごしらえや味見食器洗いを職員と一緒にしている。行事以外でも好みの飲み物を聞いて提供している。	昼・夜2食は、配食業者に依頼しており、御飯とみそ汁は、事業所で準備している。朝食は、パン食を水・日曜日行い、他の曜日は、御飯食を提供している。利用者は下ごしらえや、食器洗い、食器拭き、台拭き等、出来る事を職員と一緒に楽しみながら行っている。利用者一人ひとりが食べやすいよう、食材や形状(トロミ・キザミ・ミキサー等)、食器等の工夫をして提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	その方にあった食事量や水分を提供している。食事形態、食器の工夫などを行い、必要に応じてトロミを付いたり、刻みやミキサーにして対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行い、上手に出来ない方は必ず職員が手伝っている。一人一人の口腔ケアセットをプラスチック容器に入れている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人一人の排せつパターンを把握してなるべくトイレでの排尿をしてもらっている。	介護記録や排便チェック表等を活用し、排泄のパターンを細やかに把握し、一人ひとりに合わせた声かけや誘導を行って、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。排便の難しい人には、薬で排泄のコントロールを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日水分をしっかりとっていただき、果物やヨーグルトなど食品でも対応しながら、必要な方は医師と相談して下剤の服用や座薬で定期的な排便を促している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴の時間は決まっているが、入浴剤を入れて会話を楽しみながらゆっくりと入浴していただいている。	入浴は、週2回のパターンで湯温調整や入浴の順序等を工夫し、職員と会話を楽しみながら入浴出来るように、支援している。入浴をしたくない利用者には、無理強いをせず、時間や入浴日を変更したり、職員が交代する等、声かけの工夫をしている。利用者の状態に合わせて、シャワー浴、足浴、清拭等を行って、一人ひとりに合わせた支援をしている。		

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	安眠のため、一人一人に合わせて居室の空調を変えたり、明るさや静けさ、寝具、足を温めるなど考慮している。また、昼食後一時間くらい休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	往診の方の処方された定期薬、頓服等は、薬剤師が往診ノートに説明を書いてくれており、わからないときは、その都度聞いて説明してもらっている。ご家族通院の方はご家族に詳しく処方について尋ねている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食器洗いや洗濯物たたみができる方は日課にして、職員が毎回お礼を述べている。毎日午後からレクリエーションを行っている。担当者が表にして一か月の内容を決めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	少人数で時々近所を散歩している。コロナ禍の為、ご家族とは、面会と通院だけにしていただいている。	事業所敷地は広く、天気の良い日には、外気浴・日光浴が出来、四季折々の風景を楽しんでいる。新型コロナ感染予防の為、これまでと同様な外出は困難であったが、ドライブして車中から季節感(桜の花見)、又は、バラ公園に出かけてウサギのえさやりを行う等、外出出来る喜びを味わってもらっている。	新型コロナ感染予防もあり、中々外出が困難では有りますが、事業所周辺で、花作りや野菜作り等、人との触れ合いが少ない所での、外出を継続される事を期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には、担当職員が管理しており、自分で管理出来る方のみ少額を財布に入れ持っていたいでいる。買い物は、ほとんど職員がしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙のやり取りは自由にしていただいている。携帯電話を持っている方は自由に家族、知人と連絡をされている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	感染予防の為には今はテーブルを横に並べている。心地よく過ごせるよう、花や飾りを置いたり、空調に留意している。	食堂兼リビングは広々として、窓からは、陽が程良く差し込んで明るく、桜の花が咲いているのを見る事が出来る。利用者は、大型テレビの前のソファや椅子でゆっくりくつろぐ事ができ、対面式の厨房からは、食事の支度の音や匂いが漂って、家庭的な雰囲気を感じる事が出来る。季節の花を生け、壁には利用者と職員と一緒に作成した干支の貼り絵や、利用者が作った塗り絵、習字作品等を季節毎に工夫して飾りつけしている。温度や湿度、換気に配慮し、居心地良く過ごす事が出来る様にしている。	

グループホーム ふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	長椅子やソファを置いて好きな場所でゆっくりとテレビを見たり、会話をされたりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に本人、ご家族に家族写真や家で使用していた家具や物、思い出の物を持ち込むよう依頼している。安心して生活できるようご家族にも協力していただいている。	居室の窓が大きく、明るくて、部屋によっては、桜の花をベッドに横たわった格好で、眺める事が出来る。利用者は、テレビ・筆筒・絵画・家族写真・椅子・仏壇・化粧品・自作の作品(塗り絵)・カレンダー・アルバム等、使い慣れた物や好みの物を持ち込み、本人が安心して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや浴室にわかりやすく張り紙をしたり、必要な場所に手すりを取り付けるなど工夫している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム ふきのとう

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム ふきのとう

作成日 令和 4年 4月 9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	職員のケアカンファを2ヶ月に1回は行う。	入居者の目標に向けて皆で同じケアをし、評価する。	日程を決めてその日の職員数を多くする。出席できない人の意見を聞いておく。	6か月
2	49	コロナ禍で今までの外出や外食ができなくなった。	外の空気に触れ、収穫の楽しみを持てるよう入居者様と一緒に畑で野菜作りを行う。	野菜チームを作り、具体的な方法と役割を考えてゆく。チーム外の職員は全面協力する。	1年
3	38・48	入居者のやりたいことや取り組めることがなかなか見つけられない。	一人ひとりが好きな活動をして過ごす。	日々の生活やレクリエーションなどから、その人に合った活動を探し、ケアカンファで共有し実施してみる。	1年
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。